

大阪府保険医協会は8日の理事会で下記の理事会声明を確認し、本日発表しました。

人命に関わる危機的な事態の中で、 五輪開催の条件は全くない。直ちに中止を。

東京五輪開催について、政府は1都3県での開催を「無観客」にすると発表した。東京都の感染者が8日896人となり、感染者数が拡大する中で、「無観客」は当然である。しかし、開催そのものの判断は変わっていない。

緊急事態宣言の発出で都民に行動制限を強いて、民間イベントも中止の判断をしているなかで「五輪は別もの」は国民に説明がつかない。

8日に開催された東京都のモニタリング会議では、東京都の感染は年末年始の第3波と同水準になる見通しを示している。そして、インドで最初に確認された「デルタ株」の影響で増加ペースが上がれば「第3波を超える急激な感染拡大の危険性が高くなる」と警告した。

さらに今、南米でより感染力が強い「ラムダ株」が上陸する恐れも指摘されている。

これまでも東京五輪で感染爆発を引き起こしかねないと専門家が何度も何度も指摘している。東京五輪を開催することは、人命に関わる危機的な事態の中で、人道に反した大会と言わざるを得ない。

国民を危機にさらしかねない状況下で平和的スポーツ祭典であるオリンピック開催を強行することは、オリンピック憲章に反する根本的な倫理の問題でもあり、医療者から見れば到底容認できるものでない。

われわれは再度、感染拡大、医療ひっ迫を招くことになる東京五輪・パラリンピック開催の中止を強く求める。

2021年7月8日
大阪府保険医協会理事会